

今号は、第63回地図ならびに地理作品展から瀧口遥生さんの作品を紹介します。

ぼくが守る 新ハザードマップ

広島市立中野小学校 5年

瀧口 遙生

き、クハ
大雨で、休校になる事があり、そんな時に、ひな祭り
が来た。(1)と小学校の時に、ハル模があった。そこには
土砂災害や、洪水のなど、と書いてあった。(2)の時は
はすむ近くが山で、土砂災害の時は、ひな祭り
かならず近々来た。(3)の町には、どこの山も、人
々の災害に、おたてしているのを、知っている事になった。

[illegible]

参考文 南大

- ・広島市ホームページ防災ポータル
- ・ひろしま防災英会話 英語アプリ 避難要領月令へGO!
- ・広島市土砂災害ハザードマップ
- ・広島市洪水ハザードマップ
- ・重ねるハザードマップ

● 拠点的な指定緊急ひなん場所 地図A

 AED
 
 ばくか
考える
ひなん所
  公衆電話
  地図B
 ほとくの考える
「ここにあったらしいが、ひなん所」

洪水 (津浪異り川がはん
んした場合を想定)

土石流 (土砂災害特別
警戒区域)

土石流・がけ崩れ (土砂災害警戒
区域)

[illegible]

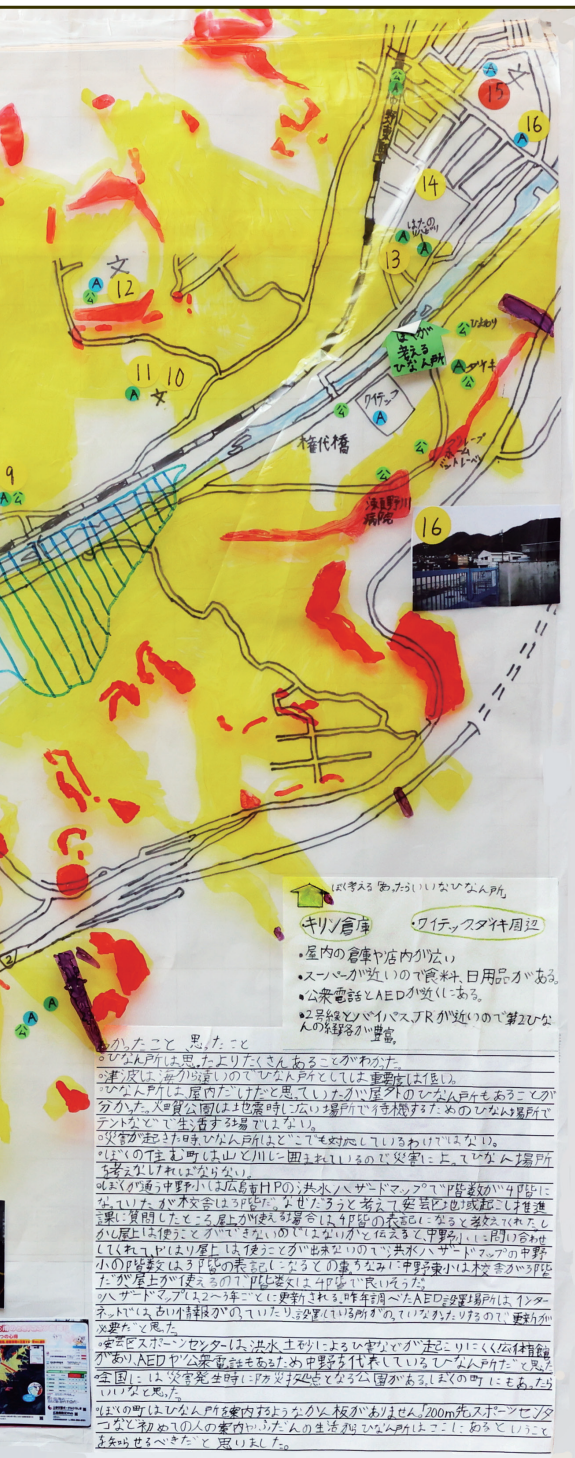
地圖 A

地図ならびに地理作品展（広島県）について

広島県地理作品展は令和7年度で64回目を迎え、小・中・高等学校が合同で運営にあたり、半世紀を超えて研究・啓発活動を続けてきたことが全国的にも高く評価されている作品展です。県内の小・中・高等学校及び特別支援学校の児童生徒に、地図ならびに地理作品展の目的を知らせ、地図に関する作業、地理模型、

地図に関する作品、学習ノート等を募集し、その中から優れた作品を集め、作品展を行っています。優秀賞には17の後援団体の賞が用意されており、審査委員会の厳正な審査を経て、小・中・高等学校で各17作品を選出します。作品は2週間展示され一般公開を行っています。毎年、創意工夫を凝らした作品が多数応募され、作品を作成する過程を通して、地図に対する理解、そして、それを活用する能力を育成する大変貴重な機会となっています。

(広島県地理作品展運営委員会)



「ぼくが守る 新ハザードマップ」

○ **作成者** 広島市立中野小学校 5年 瀧口遼生

常に更新！ ハザードマップ

ぼくの通う小学校の校門に土砂災害×洪水○などとかいてある看板がありました。その看板を見て、土砂災害が起こった時、ぼくの小学校は避難できないんだなと思いました。そこでぼくは、他の避難場所がどこにあり、どんな災害に対応しているのか知りたいと思いました。

工夫したところは、地図Aに避難所、公衆電話とAEDの設置場所をのせて、地図Bに土砂災害ハザードマップと洪水ハザードマップを透明なセロファンにかいて重ねて見れるようにしたところです。一つの地図で知りたい情報を見ることができるぼくだけの新ハザードマップを作りました。ぼくの町は、山と川に囲まれていて土砂災害、洪水が起こりにくい場所は意外と少なく、ぼくが考えた「ここにあったらいい避難場所」を2カ所選ぶのがむずかしかったです。

この作品を作っている時に広島市の洪水ハザードマップの案内を見ました。すると、ぼくが通っている学校の階数は三階までしかないのに四階とかいてありました。それを区役所に連絡すると三階に修正されました。ぼくはこのことからハザードマップは常に変まっていくことがわかりました。公衆電話とAEDの設置場所も毎年変わっています。毎年更新していざという時のために正しい情報をいつでもだれでも簡単に見られるハザードマップにしていけることが大切だと思います。

(学年は作成時)

○ 講評

自分の住んでいる町の避難場所を調べ、どんな災害に対応しているかを表にまとめ、以前作成した公衆電話及びAED設置場所の地図に避難場所を追加しました。さらに、災害ハザードマップから土砂災害の警戒区域及び洪水の想定区域を一つの地図に表しました。そして、2つの地図を重ね合わせてオリジナルの新ハザードマップ

を仕上げました。必要な情報を色や番号、記号などから一目で読み取ることができ、分かりやすい地図にまとめられています。地図製作者からの「あったらいい避難場所」も提案されており、災害時に避難する際、最適な避難場所を探すことのできる実用的な地図となっています。

(第63回地図ならびに地理作品展審査委員会)